

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー学校名：広島県 福山市立福山中・高等学校

活動名：プロジェクト型校内研 皆で実践事例集を作って学び合おう 【図1】

解決すべき課題：

- 新学習指導要領で「総合的な探究の時間」や「教科・科目における探究」が創設される。
 広島県でも同様の取組として、「課題発見・解決学習」を全県展開している。【図2～5, 7】
- しかし、「探究」や「課題発見・解決学習」はなじみが薄く、調べ学習にとどまる教員も少なくない。
- そのためか、本校生徒の「課題解決力」の平均は2.2と、他の資質・能力(2.3～2.5)より低い。
- そこで、この状況を打破する校内研究プロジェクトを実施する(全員で事例集作成・学び合い)。

目標・方針：

- 校内研は「全員参画型」で行う(担当者一人で作成した研究紀要は読まれにくい)。【図6～8】
 ▶教員全員が、1人2pで「課題発見・解決学習」実践レポートを記名式で作成する(全員参画型)。
- 教職員の「働き方改革」に配慮する(新たな仕事をできるだけ増やさない。研究は年に1つに絞る)。
 ▶教研部が「課題発見・解決学習」の有益情報を理論編としてまとめ、皆でポイントを学んで実践する。
- 完成した「課題発見・解決学習実践ガイドブック」を使って全員でノウハウを共有する(集合知)。
 ▶(その結果)生徒の「課題解決力」(本校で特に育てたい資質・能力の1つ)も向上するだろう。

活動内容：

- 教育研究部が「課題発見・解決学習」の「理論編」と「見本レポート」を作成する。【図10, 12】
- 全員で「課題発見・解決学習」に取り組み、「1人2pのレポート」(記名式)を作成する。
- 教育研究部は、年間を通じて次のような「同僚性支援」を行い、研究を推進する。【図9, 10】
 ◆声かけをする ◆質問に応じる ◆授業提案をする ◆レポートのフィードバックをする ◆共有する
- 「課題発見・解決学習」の研究授業(年4回)で具体的な工夫を共有する(全体の底上げ)。
 ▶「課題発見・学習」の各プロセス上の工夫を見つけ、互いに共有し、各自のレポート作成につなげる。
- (冊子完成後)校内研究会で実践ノウハウを共有して他者と知見を学び合う。【図14～16】
 ▶得た「課題発見・解決学習」の各プロセスの工夫点をまとめ、次年度以降の各自の実践につなげる。
- 生徒は「資質・能力ルーブリック」、教員は「アンケート」で事前事後の比較をする。【図1, 8】

活動の成果：

- 実践事例集が完成！(課題発見・解決学習)これで4年連続事例集作成。【図11～13, 17】
 ▶授業細案、成果と課題、活動の様子(画像)を収録して、次年度の授業改善の参考になる！
- (生徒の)課題発見・解決力が向上！(本校資質・能力ルーブリックによる)【図1, 17】
 ▶全学年(中1～高3)で0.4上昇(2.4→2.8) * 探究実施の高1は0.5上昇(2.1→2.6)
- 教員の指導力が向上！(課題発見・解決学習実践：68%→79%/ノウハウメモ)【図17, 18】

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- 全員で実践集を作り学び合うプロジェクトを4年連続実施。(⇒読まれる、残る、負担が少ない)
 ▶過去研究テーマ：「ICT活用」、「主体的・対話的で深い学び」、「SDGs」、「活用授業」等
- 「実践集」を使って指導ノウハウを「全員で共有」する(⇒「集合知」の活用、新赴任教員とも共有)。

図1 概要



図4 問題と課題

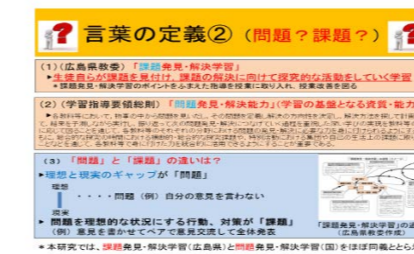


図7 予想される困難と効果

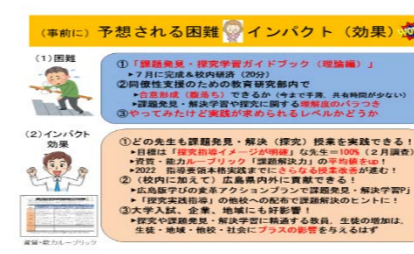


図10 実施スケジュール

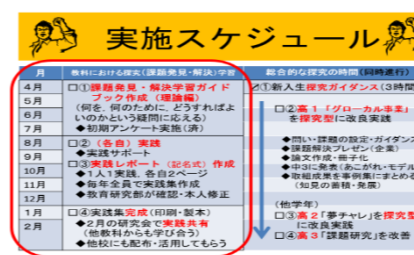


図13 事例集のイメージ



図16 指導の工夫のポイント

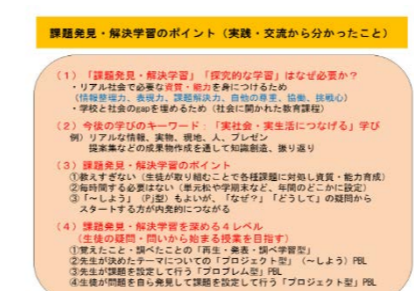


図2 解決したい問題

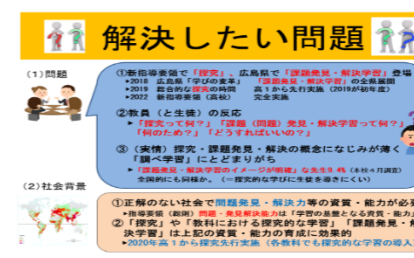


図5 原因

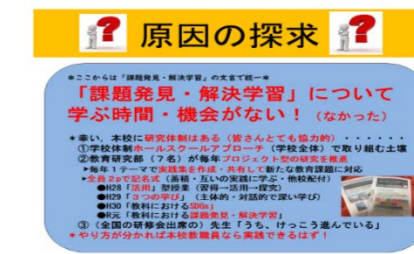


図8 資質・能力ルーブリック



図11 事例集の完成

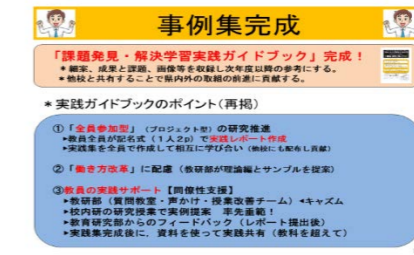


図14 ノウハウの共有

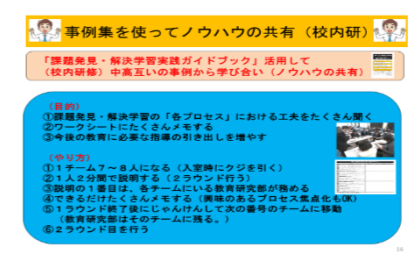


図17 成果

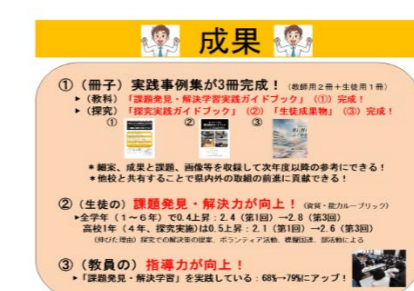


図3 言葉の定義

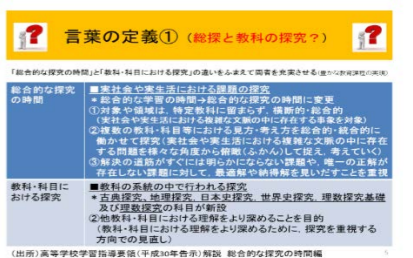


図6 解決策の検討

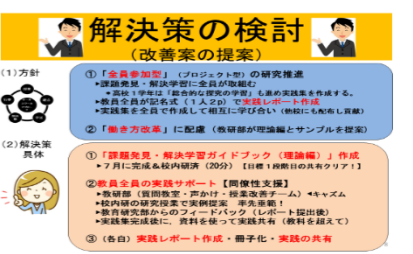


図9 研究推進のポイント

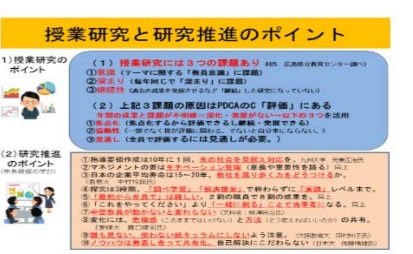


図12 事例集の目次



図15 事例共有グループワーク

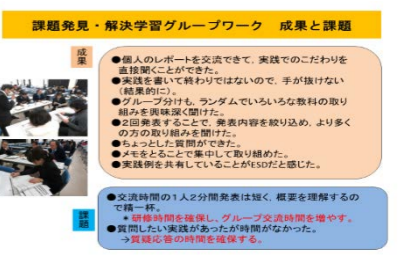


図18 今後の課題

